「おはなしおはなし」の授業報告

なぎさ公園小学校　　濵　乙穂

（1） はじめに

2011 年 4 月から、なぎさ公園小学校に勤務し、まもなく１年が経とうとしている。私の担当は、学校司書と１年生の国語科である。

なぎさ公園小学校は私立の小学校であり、独自にカリキュラムを組み、教科担任制を採っている。国語の授業は言語分野と文学分野に分類をしており、私が担当する低学年の国語科は、「にほんご」と「おはなしおはなし」に分かれている。「にほんご」では読む、書く、話すの言語技術を指導し（週に７時間）、「おはなしおはなし」では、少人数指導（約 15 人）で行い、読書力を見につけるとともに、創作や演劇活動に発展し、表現の楽しさを体験できるような指導をしている（週に２時間）。

学習指導要領分類	本学設定教科		
国語	国語	にほんご	
		ものがたり	おはなしおはなし
			読書
			鑑賞

私は１年生の「おはなしおはなし」を全クラス担当している。低学年のうちに様々な種類の本を読ませるような工夫をしていたが、子どもの読む本をチェックしていると、昔話の本を手にとって読む子どもたちが少ないことに気がついた。そこで３学期に次のような授業を計画した。

（2） 実践の趣旨

本単元は、「むかしばなしがいっぱい（光村　一年下）」の絵の中から昔話を探して取り出した後、読書計画、読書記録、紹介活動に発展する構成をとっており、児童の読書意欲を多面的に刺激することをねらいとしている。1 年生のこの時期には昔話の楽しさに触れ、自分の好きな昔話の大まかな筋を友達に紹介することで、紹介活動をさらに広げていく。

「昔話」に触れることは古くからの人々のものの見方や考えを知り、引き継ぐことにつながる。また、日本の昔話だけではなく外国の昔話も読むことにより、外国の文化にも親しみがもて、国際理解にもつなげることができると考えている。

この単元の趣旨を生かし、私は自分の好きな昔話を紹介するにあたり、短くわかりやすい「一文あらすじ」という形でまとめて紹介する活動を設定した。

あらすじを一文にまとめることにした理由は、①話を読み取りまとめる力がつく②聞く側にとっては、聞きとりやすく内容の詳細が分からないので読書意欲が湧くと考えたためである。

一文あらすじを図書室の昔話のコーナーに掲示することで、他学年の児童にも様々な国の昔話に関心をもたせて今後の読書活動につなげたい。

本学年の児童は、本を読むことが好きで、ものがたりや図鑑の本などに興味を抱いている。おはなしの授業で取り組んでいる「100 冊読書日記（経済界）」では、１年生の目標である 50 冊の読書日記を書き終えた児童が９割である。

読書記録に関して、「100 冊読書日記」に毎時間感想を書き込んでいるため、どこがおもしろかったかを読書後すぐに書き込める児童が多い。一方、読書や感想を書く早さに個人差がある。読書の苦手な児童にも読書の力をつけるような指導をしていきたいと考えている。

読んだ本の紹介は、６月に行った「すきな本をしょうかいしよう」と９月に行った「おはなしのどうぶつえん」で経験している。ただ、主人公の紹介と感想を発表するという活動にとどまっていた。あらすじを一文にまとめる経験は、「にほんご」の授業での「くじらぐも」で経験している。

（３）実践の概要

１．　単元名　むかしばなしを紹介しよう　教材「むかしばなしがいっぱい」（光村図書　１年下）

２．　単元目標

・昔話の本を選んで読むことができる。

・好きな本について一文であらすじをまとめ、紹介することができる。

３．　評価基準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	話すこと・聞くこと
・昔話を自分で探して読むことに進んで取り組もうとしている。 ・友達の紹介を聞いて、読書への意欲をもつ。	・読んだ昔話について簡単な記録をつけ、これから読みたい話を記録している。 ・誰が出てくるのか、どんなことが起きたのかを捉えている。	・自分の選んだ昔話を読み、中心人物と、おおまかな筋がわかるように紹介文を書くことができる。 ・自分の選んだ昔話を読み、感想を書くことができる。	・題名・国の名前・紹介文を大きな声ではっきりと伝えることができる。 ・友達の紹介と感想を聞いて感想を書き、友達の選んだ昔話のよさを感じ取っている。

４．　学習計画（全１１時間）

次（時数）	学習内容（時数）	指導の意図
一（２）	○「むかしばなしがいっぱい」の絵から昔話をさがそう。 ・日本の昔話についてしっているお話を絵の中からさがす。（１） ・外国のむかしばなしについてしっているお話を絵の中からさがす。（１）	・昔話に興味を抱かせるきっかけとして絵から昔話を探してワークシートに記入させる。自分の知らない昔話を聞くことによって、読みたいという意欲を持たせる。
二（６）	○「むかしばなしをしょうかいしよう！」の準備をしよう。 ・お気に入りの昔話をさがす。自由読書の時間に、読書計画をたて、読書記録「むかしばなし日き」を書く。（２） ・一文あらすじの書き方を知る。 （にほんごテキスト「おおかみと七匹のこやぎ」を使って）（１） ・紹介文、やメッセージ、絵を下書きし、清書する。（３）	・じっくりと楽しく昔話を読ませる環境を作り、読書計画を立てる力をつけさせる。また、読んだ本の感想を書かせる。 ・選んだ話を１主人公、２きっかけ、３結末、の順番に一文であらすじをまとめさせる。 ・一文に絞ったあらすじを紹介文として、清書をさせる。
三（２）	○「むかしばなしをしょうかいしよう！」の発表会を行う。 ・昔話を紹介する。発表者以外はしっかりと聞き、感想を伝える。（２）	・昔話の紹介活動。聞き手は、たくさんの昔話を知ることができる。発見カードに感想を書かせ、感想を発表させる。
四（１）	○ むかしばなしをよもう！ ・友達に紹介してもらった昔話を読む。（１）	・昔話を自由に読ませる。

（4）　手立てと授業の様子

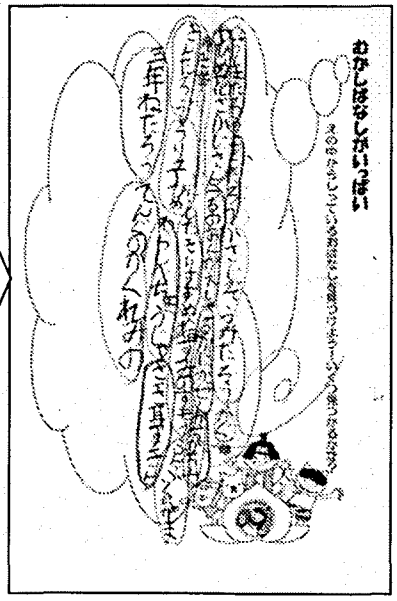
おはなしの時間には、まず借りていた本の感想を日記（「100 冊読書日記」）に書き、本の返却、貸し出しを行う。日記のチェックと合わせると 15 分はかかるので、授業ができる時間は 30 分程度である。普段の授業ではこの 30 分間に、教師や子どもによる読み聞かせや自由に好きな本を読む読書の時間(自由読書)をとっている。＜週に２度の本の貸し借り、自由読書などを併せると低学年の児童は週に平均５～６冊の本は読んでいる。＞

まず、第一次には昔話に興味を抱かせるために、教科書にある絵から昔話を探してワークシートに書き込ませた。一枚の絵の中にたくさんのお話が隠れているので子どもたちは楽しそうに絵から昔話を取り出していた。

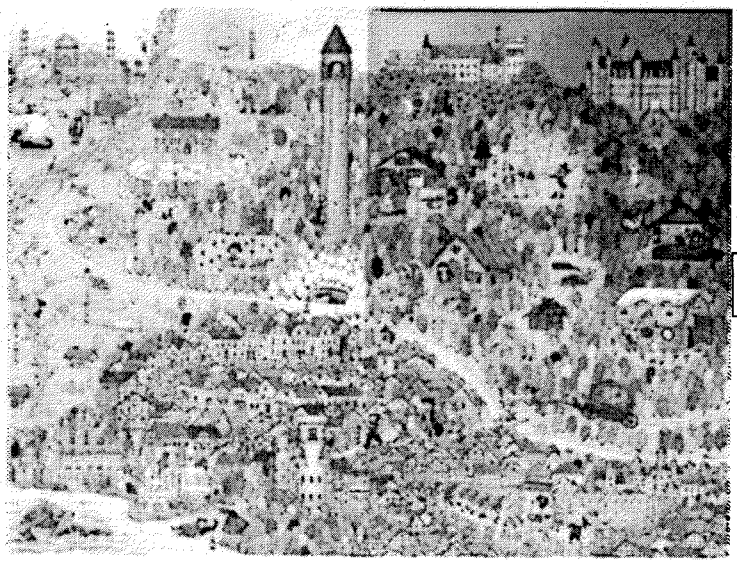
第一次　むかしばなしを絵の中から探し、ワークシートに書き込む。

一人で考える時間、ペアで考える時間に分けて楽しく昔話を探すことができた。昔話の内容は分かるが、題名がわからないという意見が多数出た。一つずつ全体で確認をすると「あー！」「そうだった！」などと言いながらワークシートに昔話を書き込んでいた。外国の昔話では、「昔話とは知らずにお話を読んでいた」「もっと色々な国の昔話を読んでみたい」という感想が出た。

①日本の昔話（１時間）



②外国の昔話（１時間）



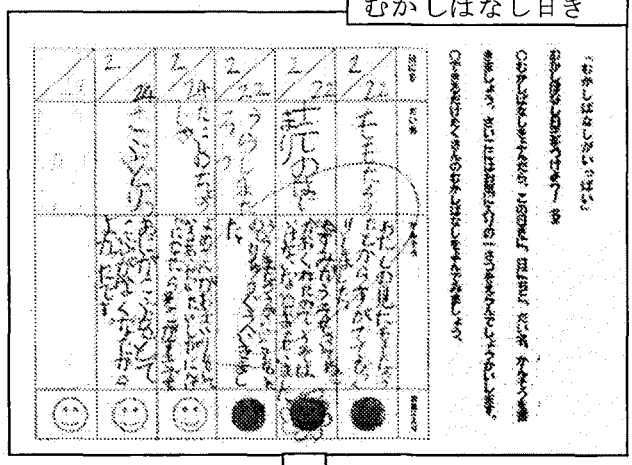
第二次

① お気に入りの昔話をさがす。自由読書の時間に、読書計画をたて、読書記録「むかしばなし日き」を書く。（2時間）

実際に児童が本を読むことが大切な単元なので、数多くの本を手にとって読めるように図書室に昔話のコーナーを作った。

前時の学習で昔話に興味を抱いていたので、昔話を読むことに抵抗がなく一冊の本をじっくりと読むことが出来ている児童が多かった。「むかしばなし日き」を授業以外でも書いてくる児童もおり、一番多く読んだ児童は4～5日間で15冊。一方読書に集中できない児童もおり2冊程度しか読めない児童もいた。学年全体の平均は6冊程度であった。外国の昔話よりも日本の昔話を読む児童が多かった。最後に、読んだ昔話の中からお気に入りの一冊を選ばせた。

むかしばなし日き



②一文あらすじの書き方を知る。（1時間）

「おおかみと七匹のこやぎ」の読み聞かせを行った後、全体であらすじを一文にまとめる。

まず、主人公を決める。次に、結末をまとめる。そして、途中でなにがあったかを考え、一文でつなげる。

このとき、主人公と結末はすぐに決まったが、きっかけの部分で、省くところと残すところがなかなか決まらなかった。きっかけの取捨選択がポイントになってくることを学習した。

<みんなで作ったあらすじ>

①だれが（主人公の性格もわかるように）

頭のいい末っ子の子ヤギが、

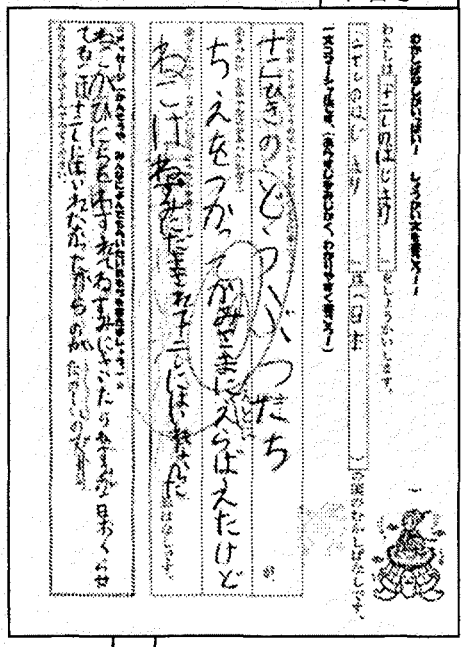
② きっかけ（途中でどんなことがあったかな？）

お母さんの留守にオオカミに食べられそうになったけど1ぴきだけ助かったから、

③ どうなった？（最後にどうなったかを書こう！）

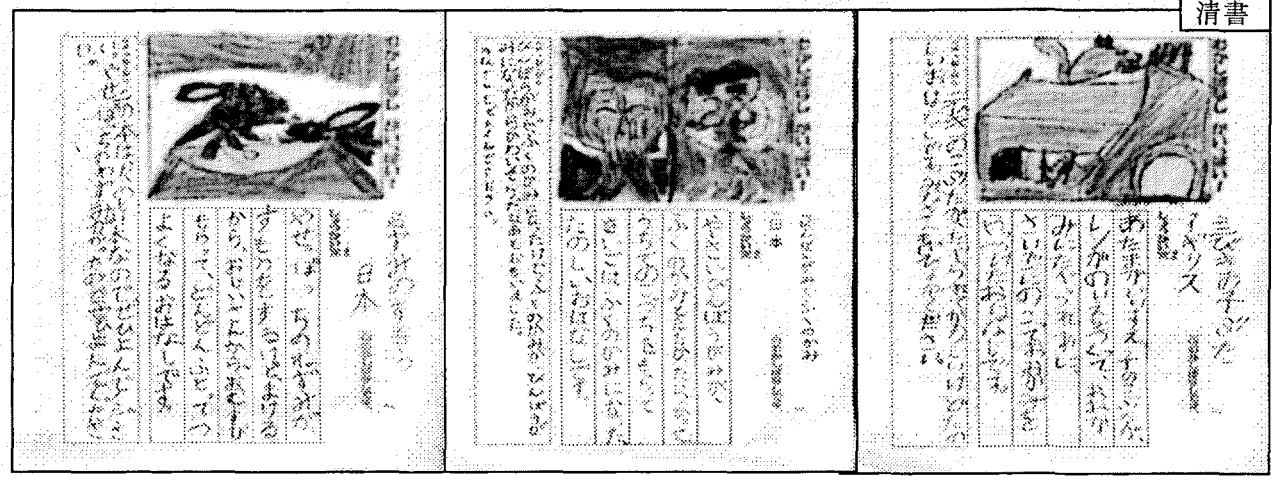
帰ってきたお母さんと一緒に6ぴきの兄弟を助けて、オオカミをやっつけた話。

下書き



③紹介文、やメッセージ、絵を下書きし、清書する。（3時間）

清書



第三次「むかしばなしをしょうかいしよう！」の発表会を行う。昔話を紹介する。

授業展開　昔話を紹介する。発表者以外はしっかりと聞き、感想を伝える。（2時間）

展開	学習活動			時間	○ 支援 ■ 評価［評価方法］
	教師の活動	児童の活動			
		からだ	あたま		
導入	・本時の流れを説明する。 ・本の返却作業を行う。	・読んだ本の感想を書いて返却する。 ・返却が終わった人から本を借り、練習・手直しをする。 ・机上を整理する。	「今日発表するんだ。」 「この本は百冊読書日記ではないから感想は日記の後ろに書こう。」 「本を返そう。」	10分	■百冊読書日記の感想欄に自分の思いが書けているか。［ワークブック］ ○欠席が続いており、紹介カードが完成していない児童は完成させるよう個別に伝える。
	むかしばなしをしょうかいしよう！				
展開 1	・本時のめあてを提示する。 ・発表するときの順番や聞くときの約束を確認する。 発表者→大きな声ではっきりとはなそう。よい姿勢で発表しよう。 聞く人→はじめと終わりに拍手をしよう。 発表者の感想を聞き、（内容について）発見カードを書こう。 ・感想カードを配る。 ・発表会を進行する。	・話をよい姿勢で聞く。 例私は「ももたろう」を紹介します。「ももたろう」は（日本）の昔話です。紹介文は…。メッセージは…。これで発表を終わります。 ・発表の順番を感想カードに書く。 ・発表者は準備をする。（本・紹介カード） ・順番どおり発表をする。 発表者7名→約束事を意識しながら発表する。 聞く人→発表を聞いて感想を書く。	本時のめあてを知る。 「今日は自分の発表だ。」 「発表する人の話をしっかり聞こう。」 「大きな声で発表しよう。」 「発見カードにお友達の発表のよいところを書こう。」 発表の順番を確認する。 「声をしっかり出そう。」 「この昔話は、外国のむかしばなしなんだ！」	5分 20分	■本時の自分の役割を把握し、約束事を意識しているか。［観察］ ○発表の仕方がわかるように発表の手順のカードを用意しておく。 ■題名・国の名前・紹介文を大きな声ではっきりとつたえることができる。［観察］ ■友達の発表に関心をもって聞いているか。［観察・発見カード］

展開 2	・感想カードに書いた感想を発表させる。	昔話の紹介を聞いて、おもしろそうだとおもったところや、読んでみたいと思った本、感想などを発表する。	「おもしろそうなお話だから読んでみたいな。」 「～さんが紹介した、「・・・」の昔話は～と思いました。」 「主人公が～をしたところが楽しそうでした。」	7分	■自分なりの感想や気付きを交流することができるか。［発表］ ■友達の感じたことを姿勢で聞くことができるか。［観察］ ○全員が発言できるように指名をする。
まとめ	・発表を聞いての感想を言う。 ・次回の発表者の順番を決める。（7名） ・片付けを指示。	次の発表への意欲をもつ。 片づけをし、整列する。	「次の発表をがんばろう。」 「～くんの紹介してくれた昔話を読みたいな。」	3分	○机をそろえ、消しゴムのかすを集めるよう伝える。

三次の授業では、発表者が堂々と発表をしており、聞く側も発見カードに感想を書くことによって、発表内容をしっかりと聞くことができていた。

前回の紹介活動の感想では、声の大きさや姿勢について書くに留まっていた為、今回は感想を書く欄に声の大きさ、ゆっくり、はっきり言えていたか、「です・ます」まで言えていたかなどについて○や△をつける欄を加えた。そのため、今回はあらすじについての感想を書くことができていた。

発見カードの工夫が不十分な点や充分に感想を書く時間をとれなかったなどの反省点が残った。

第四次友達の紹介してくれた昔話を選び、楽しく読書ができていた。（1時間）

（4）成果と課題

○第一次で絵から昔話に興味を持たせたため、強制的にならずに、楽しんで昔話を読ませることができた。

○子どもの好きな昔話を確認することができた。

1位　いっすんぼうし、ブレーメンの音楽隊

2位　かちかち山、三びきの子ぶた、白雪姫

3位　ねずみのすもう、小人のくつや、ねむり姫

4位　十二支のはじまり、長靴をはいたねこ　など

○　昔話は勧善懲悪の内容が多く、あらすじを一文にまとめ易い内容であった。今回の学習で、主人公や、主語、述語を今後確認しやすくなると考える。一文にまとめる活動は今後も継続していきたい。

●　発見カードの工夫が不十分で、国名や主人公を書かせるなどの発表に即した工夫が必要であった。

●　読書量の差が読解力の差に繋がるので、読書が苦手な子どもにはレベルのあった本を薦めて、一緒に本を読むなど、読書慣れをさせるような工夫を低学年の間にしなければならない。